

建築文化賞

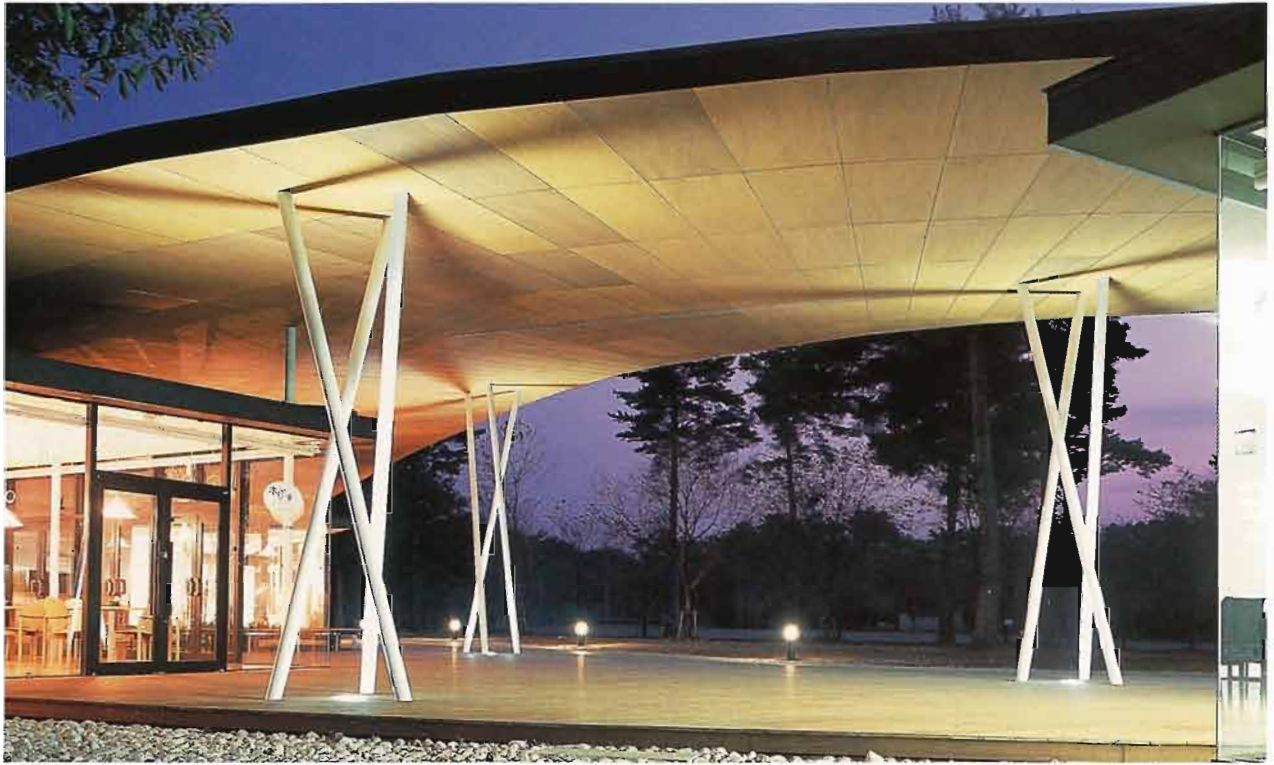
景観に配慮した建築物

建築主：栄町
設計：株式会社 環都市・建築計画事務所
施工：共立工業株式会社

里山に浮かぶ大屋根

栄町総合交流拠点 ドラムの里

所在地：印旛郡栄町龍角寺1039-1



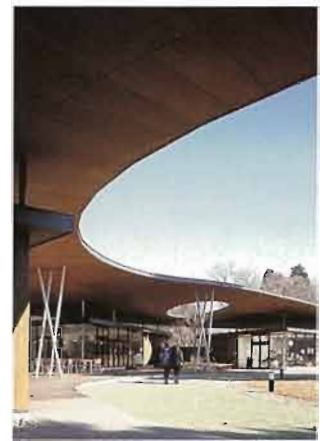
夜景（撮影 齋部 功）

この施設の評価は周辺環境に溶け込んだ単なる一つの建築としての秀逸さにとどまらない。地域のまちおこし・まちづくりに燃える人々が事業プログラムの構築に深く関わり、設計者がそのシナリオや人柄や場所性を丁寧に読み取った結果生まれた、この一連の営みそのものが注目されるべきである。建築的には桜林や雑木林のなかにブーメランのような薄いつまみ印象的な屋根を掛け、その下に必要ないくつかの透明なボックスを配した極めて単純明快な構成である。その結果、この一帯を訪れた人々は建物によって視線を断ち切られることなく、台地の上の雑木林の木漏れ日を浴びながら、地域の出会いの場に心地よく身を委ねることができる。

さらに特筆すべきは、プロセスに参加した人々が施設の運営にも深く関わり、JAによる地域の農産品の生産・売買や、地域婦人会による郷土料理レストランの運営を中心とした活動の拠点として、実に生き活きと使われていることである。隣接する「房総のむら」や「房総風土記の丘」と連携した、この地域の活動文化拠点ともいべき一連の施設構成の質は高い。ただし、この建築の印象を決定づける構造的にチャレンジした屋根周りに関しては、その実現に要したコスト配分や、屋根形状が原因となる今後のメンテナンス（特に軒裏）に多少疑

問が残る。しかしなお、かつての里山のようなやさしくつかしい環境の中で、建築が勝ちすぎることなく、かつ巧みにデザインされたたまたま、そうした活動の舞台としてふさわしい、そんな思いを強く抱かせる作品である。

（岩村和夫）



大屋根とレストラン棟・ショップ棟



木もれ日のレストラン棟